

件名	H30 第1回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会		
日時	2018年5月8日(火)18:30~19:40		
場所	湯梨浜町中央公民館泊分館 2階大会議室		
出席者 (敬称略)	(委員9名)遠藤公章、石沼友、朝日田卓朗、本田典子、西田貴頼、澤志任、田嶋昭彦、 渡邊由佳、石井美佳代 (オブザーバー) ・ 県中部総合事務所地域振興局 山口リーダー、米原係長 ・ 地域おこし協力隊 辺隊員 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 仙賀副町長、遠藤室長、谷岡主事		
			計 15名
決定事項 (合意事項)			
次回までの 調整事項			
配布資料	協議会会議レジュメ、提案書(案)		
	<p>(会長)年度末に提案書をまとめましたが、これまで協議した内容で、根本的な部分と異なる部分があったということで、再度、我々が考えている事と大幅に違う訳ではないので、そここのところの説明をいただきながら、まとめていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>■提案書</p> <p>(会長)年度末にまとめたものに変更がありますが、比較対照していただくために先月末までにまとめた資料もつけています。変更になった点について、どうして変更になったか、また変更の内容などを事務局の方から、ご説明いただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>(事務局)主な変更点としては、拠点の機能ということところで資料にマーカーがしてある部分です。「公民館機能」という表現をカットして、「コミュニティ機能」に変更しました。また、「プラス・プラス」と一か所に集めるという表現を「・」に変更しました。その下の既存施設の項目で、役場泊支所の方向性について、「改修か」を追加しています。また、中央公民館泊分館については、「機能を新拠点へ移行せず、建物は将来、建替えて現在地を教育エリアとして再構築する」に変更しています。まず、大きな変更点としては、泊支所に改修が入ったところです。平成25年に耐震の診断をしておりますが、その時に出していた改修費を改めて確認したところ約5000万円程度だったため、それであれば、ある程度改修できるのではないかとこの事で入れさせていただきました。あと、中央公民館泊分館の公民館機能の表現について、この機能の施設は、隣のしおさいプラザなどは新しいので残る形になりますが、そこだけ残るのは少し弱いのではないかとこの所もあるのでは、協議会の中でもどちらかと言うと今の漁村センターのような機能、公民館機能というかコミュニティ機能のような皆さんが集まったり、なにかイベントなどが出来るようなスペースがあった方がいいのではないかとこの意見が多かったため、その部分だけをコミュニティ機能という表現を使って、新しい拠点へ移せばいいのではないかとこの所で変更しています。</p> <p>(会長)協議会は当初から泊支所が使えないという前提で検討していたので、そこから機能のすべてをどこに持っていくのかという場所の事とか、移動の手段を悩んでいましたが、金額的にも解体して新しいものを作るよりは、かなりコストが抑えられるのかもしれないし、あそこの建物の中には情報ハイウェイという今皆さんの家にケーブルがいてますけど、そのもとになるシステムがあるそうで、あれをいったん動かすのは大変な作業らしく場所すらも確保できない状況もあるようなので、それならもともと使えるのであればという話が出てきました。その辺りでもう一度役場機能はその場でそのまま使えばいいのではというところで、建物は再検討して改修の方向でという所が一つの大きな所です。それと中央公民館の今の機能を、当然コミュニティスペースだけではなく他にも調理行為などもあります、そこまで協議会も踏み込んだ議論をしてこなかったため、コミュニティ機能は必要だと思っておりますが、皆さんのご意見はいかがでしょうか。</p> <p>(委員)前回までは、現存施設である役場泊支所と中央公民館泊分館と漁村センターと青少年の家を解体して、新しいものを一つ作る、これは役場の方針でもあったという風に理解してはいたのですが、今回状況が変わってきて、今の話で、役場を残す、役場機能をもった新しい施設を作るという話があって、役場機能としてどちらがメインになるのかという事にまず疑問を持ちましたし、一つの場所に作るという事で、その職員のシェアリングとかも検討していたと思っておりますが、結局分割させるなどにも疑問に思い</p>		

ましたので、もう少しその辺りをどうしてこのように変わったのかという事を教えていただきたい。漁村センターを残してほしいという意見も一部ありました。それは、泊3～6区には自前の公民館がないので、集まる場所がないということでしたが、この新しい施設で大人数で集まれるものなのかをもう一度再検討する必要がでてきたと思いますし、サロンとか少人数の集会は出来ると思いますけど、例えば新年の常会とか60～80人規模で入れるスペースが新しいところ出来るのかどうか、もう一度検討が必要ではないかと感じています。

(事務局)泊庁舎を壊すという前提の中で協議していたようだが、町としては全部をなくす方向では考えていませんでした。一つに集約できれば、集約してほしい、ただ、大きな考え方として、町の公民館自体を建て替える必要があるという事は教育委員会の方から既に出ています。教育委員会は、泊・東郷・羽合の3地域に公民館機能を残すと合併後の教育委員会の中で出てきています。その時に今の泊庁舎自体が、耐震的にアウトだったら、機能を一つにした方がいい、その時に他施設と統合して行く必要があるのかどうかという議論と、泊地域の大きな問題として、買い物難民をどう支援していくのか、そこに交通インフラの整備も含めてどうやって行くのかという形がいいのかという事を小さな拠点の協議会で検討していただきたいという旨だったと思います。途中の経過を拝見していた時に、公民館機能と買い物できるお店が一体化したような事を皆さんが考えられていて、それをどこかに持っていったらどうかと、あるいはここの公民館の空き地をどうするのかという事も含めて検討いただいたと思います、最終的にアンケートを取られた時に75%ほどの方が平地がいいということだったようですが、また、実は泊庁舎はデータの的には津波の影響がほとんどないと言われていています。新しい津波のデータが県から届いていますが、泊庁舎はほとんど影響がない、ならば、そこに今の庁舎機能があってもいいのではないのか、公民館は目的のある方が行かれるが、役場機能は誰でも行けるような場所である必要があると思います。特に泊庁舎は周辺にバス停や郵便局もありますし、機能的には一つの地域の中で賄える場所にあると言えます。ただ、ATM自体が撤去される恐れもあり、役場庁舎を施設として使用する提案があった方が、泊地域の方にとっては良いのではないのか、そのような方向性で協議会の中で議論いただくことが望ましいのではないかとこのことを会長と話したところです。今の公民館に役場機能を持つことは簡単ですが、確かに人員の配置を考えるのが行政はそうなのかもしれませんが、お年寄りが歩いて上がってこれるかと言うとなかなか大変な事ですし、将来的に例えば庁舎をなくすという事を前提にして、そこに機能だけをおくというのもいいかもしれませんが、逆に郵便局などに役場機能を置いた方が町のためになるのかと思っていました。そういう意味で耐震の環境をみたところ、金額だけの話ではなくて、コンクリートの中性化の問題から見ても、泊支所の建物はしっかりしていて、風化や塩害の被害をあまり受けていないので、今後耐震することによって羽合や東郷の庁舎と同じように利用したほうが効率的ではないかと考え、お話しさせていただきました。

(委員)役場機能として窓口はそのまま、新施設は買い物機能と漁村センターなどでやっている地域のコミュニティスペースを新設すると？

(事務局)漁村センター自体は耐震診断をしたらアウトだと思います。

(会長)そういう事でした。

(事務局)そういう場合、残すか残さないかという、町としては不必要な施設になっていく可能性の方が高いので、整備計画が終わった段階で取り壊した方が良いのではないかと思います。3～6区の地区公民館がないことについては、昔に漁村センターを無償譲渡の際には区は要らないと言われました。

(委員)要らないというか、維持費が60万～80万かかるという事だったので、支払うことができないということでした。

(事務局)それだけ費用をかけて、町が区に貸し出す事が出来るかどうかなどの議論も逆にしていけない。維持費だけかかっていて3区～6区の公民館機能のために置いておくのであれば、自前でやっている他地域との差別化が説明しづらくなるのではという事もあります。

(会長)漁村センターなど耐震基準を満たしていない3階建て以上のものを行政の施設として使用するのには今後難しいと聞いたし、私たちがこの話の説明を聞いた時に基本的に今の施設は取り壊した状態そこからスタートするという頭でいました。

(事務局)白紙にという言い方だったら分かりますが・・・

(会長)なくなる機能をどう効率的に再構築するのかというところから議論していたので・・・

(事務局)魚村センターは2～3階は利用していないし、耐震をしようとするといくらぐらいかかるのか、こちらも調べてみる必要があると思いますが、きっと結構なお金がかかるのではないかと思います。

(委員)前回の会からも紆余曲折があって整理するのに自分も戸惑っているところです。

(委員)アンケートで場所まで聞いておいて、結局そのまま庁舎は使えるということで。当初から役場が

耐震して活用できれば一番いいとは思っていましたが、その方向でいくのなら、ずっと決めていけばいいと思います。

(会長)そうですね。使えるものがあれば、その方がスピーディに進みますね。

(事務局)合銀さんのATMはいつまで残るんですか。

(委員)私が聞いているところではATMは基本的には残ります。時間も延長しているし、今の人口、預金量を勘案しますとなくなる予定はないと感じています。急激に人口が減るとか、利用率が非常に低くなるなどがあれば、少しあるかもしれませんが、今の現状であればATMは残る予定になっています。ATM自体は残りますが、店舗が古いので壊すことは近い将来あると思われます。小さな拠点で新しく移る時に、もしかしたら皆さんの御要望によりATMコーナーを移動するという事は協議は出来ますので、対応できるかと思われます。

(事務局)もともと駐車場がないので、どうかと思っていましたが、例えば、銀行を取り壊して、ATMを庁舎内に移動して、跡地を無料で借りるとか、地域の中で利用できるという事であれば、利便性も良くなりますし。

(委員)株式会社なので、利益の問題もあるので、私の立場からはお答えできないが、もし皆様から要望があって、こちらも取り壊した後どこかにATMコーナーをつくらなくてはいけないので、他の場所に作るのか庁舎内に作るのかどうかという議論は方針が決まれば、社内で挙げさせていただきますし、今の状態が良いとは思っていませんので、反対に耐震工事をしていただくことになれば、役場の中に設置しているところもたくさんありますので、その辺りは皆様のご要望があれば。

(会長)無人の中にあるのではなく、職員さんなど人がいるところの方が、お年寄りなどはいいのでは。変な詐欺なんかもありますし。その方が安心なような気がします。

(委員)新しい拠点に例えばコンビニが入ってATMが設置された場合、単体のATMは設置されないという事はありますか。

(委員)コンビニATMは別のくくりで、コンビニさんも早いので、ずっと同じ場所に何年もというのがありませんので。例えばコンビニがあって、それで十分潤うという事であれば可能性は低いと思いますが、検討するかもしれません。ただ、そもそも機能がまったく異なるのでなくなることはないと思われます。

(会長)検討のスケジュール感を、早急に対応していかななくてはいけないと思いますので、事務局からご説明をお願いします。(別紙)

#### ■スケジュール

(事務局)改修の場合、新築の場合を比較するよう並べました。新築の場合当然解体が入りますので、実際の工事の期間が長くなると思われます。買い物機能の場所を改修した場合には、公共施設と同様のペースで進むことが出来ると思っております。最後に今後の協議会のスケジュールを簡単に案として書かせていただいております。今年度は基本計画と基本設計を予定しております。その辺りは皆さんのチェックやご意見をいただきながら進めていく形になると思っております。それと並行して、ずっと議論していただいている買い物機能について、運営などについて具体的な検討に入っていきたいと思っております。その後買い物機能については、運営組織の設立ですとか、運営準備というような流れになっていくのかと考えています。

(会長)新築の場合というのはスムーズに情報ハイウエイのシステムが役場からどっかにいけて、というのが前提で？実際そのメドはないですね？

(事務局)このスケジュール案は、単純に建物だけになります。

(委員)役場をバージョンアップして改修するという事ですか。漁村センターも公民館機能も含めて維持するのでしょうか。

(会長)細かく言うと公民館機能は結構なボリュームがあるんですけど、その内のコミュニティ機能というのを小さな拠点の方で作ったらどうかという事に絞っているところです。

(事務局)例えば、耐震しても余り良くないので、取り壊し新しく建てるとした場合に、そこにコミュニティの機能を入れるという理解していただければ。

(委員)それを今の役場で？

(事務局)役場の中については、耐震しながら今の機能をそのまま置いておいて、新たに複合的なものが入ればいいんだというところの一つとして、例えば合銀のATMが中に入って出来ないのかとかという議論です。漁村センター自体は、公民館を壊したら、その機能が無くなるので、どこかに一時的にでも施設が必要になってくるため、その時には当面は漁村センターになると思っております。利用できる施設を利

用しながら、新しく公民館が出来る間は、漁村センターを利用するとかという形をとっていったって、最終的に漁村センターをどうするのかという議論の中で、公民館として残すのか、取り壊すのかという事だと思います。

(委員)役場の使っていない2階、3階で補うという事はだめですか。

(事務局)役場のセキュリティ上どこかに別の入り口を設ける必要があります。公民館が2階にあるというのは、町民にとっては1階にある方が良いような気がします。

(委員)3つを維持するより、どこか一つをバージョンアップすればみんながわかりやすいと思います。

(事務局)その事も検討の中に入れていいんですけど。ただ、公民館を取り壊した時に、図書館だけが残るのがどうかなと思います。ここは小学校に近いので児童さんたちも使用することもあると思います。図書館を利用する時も公民館に集まっている児童さんも見受けられますので、ここはこのまま残した方がいいのかなと思います。取り壊して駐車場という手もありますが、その時にはまず駐車場確保というのが大前提になってきます。また、公民館で物事を考える時に、マイクロバスの利用などもあると思われれます。お年寄りの方のサークル活動があるわけですし、そういう時に2階よりも1階ですっと入れて利用できる方が、機能的にはいいような気がします。

(会長)小さな拠点としては、その平地のところはどういった機能、いわゆる買い物機能、役場窓口機能と、サロンでも出来るようなコミュニティ機能に絞って考えておいて、公民館機能は本来残すべきだという事が当初からあったということで、これから先の公民館機能について本当に大切なことは何かを考えて、どういった物を作るかは教育委員会に考えていただく方がいいと思います。そこまで手を広げると我々の守備範囲を超えて大変になってくると思います。公民館は今の人口サイズで考えていただくのかなと思います。

(事務局)もう少しコンパクトになるのではないかと思います。利用計画に基づいて。

(委員)青少年の家はやってるんですか。

(会長)ずっとやってます。

(委員)それも残すんですか。

(会長)青少年の家はなくす予定。高台エリアが広がるので、利用方法は公民館機能を含めて今後検討する必要があると思います。

(事務局)新聞で資料館が県の文化財指定になったので、残した方がいいかもしれませんし、その辺りの利用も文化ゾーンとして残した方が将来的に地域のためになるのかもしれない。

(会長)泊のことを伝えていくものがなくなってしまいますね。

(委員)今の公民館でやっているようなことを役場でもするという事ですか。私としては結構公民館を利用しているので、公民館はあった方がいいと思っていたので、残るのはありがたいですが、安心できません。

(会長)公民館機能は別立てで教育委員会が考えていただくので心配することはないと思います。

(委員)公民館も将来的に立て替えられると思うが、いろんな新しい施設が建ってくると、ニーズを考えると時代に合った設備が整っていないという事は利用が増えないと思います。利用者を増やしていくためには、住民が望んでいることを果たす機能を作っていくかといけなと思います。アンケートを見させていただいてそう感じます。

(会長)今の時代というか、地域にあったものを作っていくかといけないのだと思います。

(委員)泊地域は、買い物が大変だと感じていたが、役場周りであれば利用しやすいと思う。役場の場所を皆さん知っているの、集まりやすいとは思っている。

(会長)バスの便は結構ありますが、あまり利用されているかどうか。その気になれば便は多いので。バス停までの移動が難しいのかもしれませんが。

(委員)バスの利用が多いってことですか？

(会長)バスの便が思ったより多いってことです。JRに比べれば。

(事務局)1時間に2本程度であれば通っている。

(事務局)なんと言っても駅がある強みと、皆さんが来られた時に一つの場所の中である程度の事が片づけられるのがいいのではないのでしょうか。核になるのは、医院で泊のなかでは重要な位置づけだと思います。町内では民間の内科は3軒しかないんです。泊・東郷・羽合の中で。無くなったりしてますから。泊の医院は大事にしていきたいと思います。

(会長)この拠点の議論の中でもチラチラと出てますし。医院と港の辺りは極端に離れているわけではないので、なにかしら行き来は出来るのではないかと思います。あと、具体的な中身のどの程度のスペースやコミュニティ機能などは次のステップで考えていけば良いという事によるのでしょうか。店舗な

どについてはやはり車利用の良いところがいいと思いますので、前回までは津波の所のエリアはっていう所があったんですけど、そこはもう考えなくてもいいですね。

(事務局)泊支所のところは来ませんし、新しい基準で言えば、ちょうど漁港内の店舗までが津波の影響があると思われます。

(会長)基本的には、商品が流れても、人は避難したらいいと思いますが。

(事務局)いざとなれば避難すればいいことなので。

(会長)そのために高いところに作って、利用者が何百年に1回の時のために、不便なところに買い物機能を持っていくのもどうかと思います。

(事務局)例えば、高台に避難される方は4・5・6区の辺りだと思います。公共施設としては社協もありますし、これから公民館が新しくなったらそちらでも非難は可能ですので、早く非難したい人は泊庁舎のあたりで、体力のある方は高台までの非難に十分対応できると思います。

(会長)防災については、住民がどう行動していくのかは、しっかり検討していかなければならないと思います、このエリアは。この機能、建物について、他にないかありますか。方向として、大きくもともとは違っていないので。

(委員)店舗のことを考えたときに、大手コンビニが入れば十分集客力あると思いますが、仮に有志が集まって店舗を設立した時に、その店舗だけで集客力があるかという不安があって、視察に行った時は、廃校になった校舎の中に地域の協議会の事務所も入っていて、その職員さんが店番もするという公民館に来られたお客さんが、買物をして帰るということもあって、集客力を維持するというのがありました。5月に出来た倉吉市の店舗に行ってきました。昼過ぎだったのですが、お客さんが居なくて、2人店番をされてました。品揃えはしっかりしてましたけど、あそこも前は農協さんの施設で、やっつけられたという事で、近くに公民館もありますし、小学校もあるところで、比較的集客力が確保できるかと思っていましたが、今度今までの話と違って、店舗単独のような形になった時に、果たして存続可能かという点が心配になってきます。泊の消費力はここ数年激減しているように商売をしていて感じます、それをカバーするのは・・・。今までの計画では、例えば役場に来られた方が買物をする、中央公民館を利用された方が売店を利用する、というような集客も見込まれましたが、それが、離れてしまうという事は単独で集客をしなくてはいけなくなります。課題が出来たのかなという思いがしています。

(事務局)皆さんが協議会で視察された時に、結論として高台はなかなかお客様がこられないのではと議事録で見たような気がしますが、それは違うんですか？

(委員)それはその通りです。

(事務局)そうなるくと土地の問題があって、ここの中にもいろいろな部分があるんですけど、全体的に機能を持たそうと思えば、漁港区域内に全部移転していかないと、難しいような形になりますが、それが果たして、良いのか悪いのかと。ただ買い物難民のために集約する、例えば、そこをもって集客力がないとは、逆にみなさんの中に寄付してくださる方の割合を出していただけていますが、アンケートの中には、寄付してでも作ってほしいという事は、自分たちの店としてそれを利用したいというような方向付けに持っていく、あるいは自分たちがそういう自分たちの店だという気運を高める事が、成功する事例になるのではないかと。呼び込むことが必要ではなく、これはみんなにとって必要なんだという位置づけが重要なのではないかと思います。それが、拠点の考え方だとも思います。自分たちが自分たちで作った店を守っていくというのが。

(会長)複合型の施設だとしても今の状態では経営は難しいと正直思います。住民の方がどれだけ意識を変えてもらって利用するかという買い支えもしていただかないといけないし、もう一つは海の駅協議会というのがありますから、外貨というか外部からの集客の事もセットで考えないと。店を維持していきこうとしたときには、かなりそういう所の工夫が必要になってくると思います。

(事務局)もうひとついいのは、定置網が6月から始まります。定置網を考えた時に鳥取県漁協の方が、地域の活性化も考えているという事ですから、そういうところが外部からの集客につながるかもしれません。人が来る手法を行政も泊地域の町民の方も一緒になって、店を繁盛させる努力をしていく必要がありますし、そのための方法を考えていけばあると思います。この約800世帯の半分が利用すれば、店としてある程度運用出来るのではないかと思います。

(委員)利用してもらえように店づくりを。

(会長)視察先も若干黒字という事になってましたが、数字上は。実際には人件費が市から結構出ているので、本当に純粋な経営という観点からみると数百万の赤字だと思います。それが実態だと思います、こういう店っていうのは。

(事務局)町がまちづくり会社を設立させて、今年度中には何とか松崎地区に同じような店をオープンさ

せることになっているので、その状況を見ることによって検討材料になると思います。

(会長)住民もですが、どれだけ交流人口を増やしていくかという事も考えていかないといけないと思います。その他何かありますでしょうか。ではこの方向性で提案書を出す事でよろしいでしょうか。

(一同)了解。

(会長)何十年かかけてこういう状態になった一番の原因の根本は、人口減少だと思いますが、拠点について考える中で、どうしても、人を増やしたいという事で造成地を増やしてほしいとかそういう事もこの中に含めていましたが。

(事務局)それは必要なことだと思っています。今、原地区に造成が見られますし、石脇地区の方にも整備できるようにしています。新たに造成するという事は莫大なお金とさらに現行の進捗率が遅くなるので難しいですが、今ある計画を実行できるように。例えば、町がインフラ整備の支援をする事は大事だと思いますので、そこから進めることが重要だと思います。

(会長)ちょっとでもテコ入れしていただくとありがたいです。泊地域に建てたいという人はいるんですけど、声にならなくて。住宅メーカーさんも泊には土地がないからお断りしていると何件か聞いています。その他何かありますでしょうか。ではこの案で最終報告にさせていただこうと思います。また、引き続き皆さんに検討していただきたい事がありますので、今後ともよろしくお願いいたします。

#### ■鳥取県×日本財団

(事務局)協議会がスタートした時に一度情報提供させていただきましたが、鳥取県と日本財団が共同プロジェクトに取り組んでいて、5カ年計画の今年が3年目という事で、その中の、共同プロジェクトに中山間地域の生活支援というところがあります。こちらが、まさに小さな拠点が該当しそうなところになっています。具体的には、実際にあった事例だと岩美町さんですとか、江府町さんであります。こういう所が取組に活用できないか考えておまして、来週の月曜日に県の窓口の方とこの件について相談することになっていますので、皆さんに情報提供いたします。現在こういう動きをしていますというご報告です。

(ワザバー)県と日本財団が協定を結びまして共同プロジェクトという事で行っております。皆さんご存知かもしれませんが、額は何十億です。協定を結び、5か年計画で取組んでおります。今3年経過し、実績が県内のいろいろな取り組みに使われています。それぞれの地域のオリジナルな課題を解決するために県・財団がタッグを組んで推し進めているような案件ですので、是非皆さんもこのような取り組みにご賛同していただいて、取組んでいただければと思います。岩美町さんが道の駅などで事業を展開されています。そういった中で、こちらにも海の駅構想もあるようですので、広い視野で情報収集していただいて、こちらにマッチするような事業内容をご検討いただければと思います。

(会長)ありがとうございます。

#### ■泊地域小さな拠点位置資料について (別紙)

(事務局)提案書を地図にまとめたもの(A3版)をみなさんに配布しました。複数のパターンなども記載しています。提案書に添付する予定です。

(会長)本日はここまで決めて、提案書として終了したいと思います。最後になりますが、住民説明会などで回ってみても、住民の方の危機感など、まだまだないのが現状で、そこを変えていかないと、施設とか店舗はなかなか成功していかないので、これから協議会のメンバーの役目は内容の事もありますが、いかに住民の方に伝えたりとか住民の方の意識を変えるところにあると思います。

(事務局)この小さな拠点については、議会に説明がまだできていないので、今日の段階でまとまったものを説明していく必要があると思います。新設、改修などまとまった段階のものを今月16日に議会の方でお話ししたいと思いますので、よろしくお願いいたします。